

第379回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《プログラム》

日時：平成28年9月10日（土）午後15時00分
会場：新潟医療人育成センター（医学部内）4階ホール
中央区旭町通り1番長757

次回 第380回新潟地方会予告

日時：平成28年12月10日（土）午後3時

会場：未定

演題申込期限：平成28年11月18日（金）

- ※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7分、討論3分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784

会長 富田 善彦

15:00~15:40

座長 安楽 力

1. Von Hippel-Lindau (VHL) 病に伴う右副腎褐色細胞腫摘出後の両側再発に対し腹腔鏡下左副腎部分切除術を行った1例

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野¹⁾、同 小児科²⁾

渡邊和博¹⁾、瀧澤逸大¹⁾、丸山 亮¹⁾、笠原 隆¹⁾、原 昇¹⁾、佐々木直²⁾、富田善彦¹⁾

症例は9歳男性。2011年頃から頭痛、高血圧、発汗を認め、2013年当院小児科にて精査されVHL病に伴う右褐色細胞腫と診断された。同年当科にて腹腔鏡下右副腎摘出術施行したが、2015年頃から尿中カテコラミン値上昇を認め、画像精査にて両側副腎褐色細胞腫再発を疑い、2016年5月に腹腔鏡下左副腎部分切除術を施行した。本症例について若干の文献的考察を含めて報告する。

2. 膀胱腸瘻4症例の検討

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野¹⁾、厚生連佐渡総合病院²⁾、
県立加茂病院³⁾

村田 雅樹¹⁾、田崎 正行¹⁾³⁾、黒木 大生¹⁾、石崎 文雄²⁾、富田 善彦¹⁾

膀胱腸瘻4症例を経験したので報告する。平均年齢は72.5歳、男性3例、女性1例であった。大腸憩室炎を原因としたS状結腸膀胱瘻が3例、直腸癌術後の直腸膀胱瘻が1例であった。症状は重複も含めて排尿時痛が3例、糞尿が2例、尿路感染症が2例で、うち1例は敗血症の状態であった。全例CTで膀胱内airを認め、瘻孔部は大腸内視鏡で2例、膀胱鏡で1例確認できた。3例に瘻孔部を含めたS状結腸切除術・膀胱瘻孔部閉鎖術が施行され、1例は保存的に治療した。全症例尿道カテーテル抜去が可能となり、経過良好である。

3. Mixed epithelial and stromal tumor of the kidneyの一例

柏崎総合医療センター¹⁾ 長岡中央総合病院²⁾

乾幸平¹⁾ 羽入修吾¹⁾ 五十嵐俊彦²⁾

Mixed epithelial and stromal tumor of the kidney(以下MESTKと略す)は腎の稀な良性腫瘍であり、2004年にWHO分類に採用された。今回、嚢胞性腎癌との鑑別が困難であったMESTKに対し、腎摘出術を行った症例を経験したので報告する。症例は65歳女性、37℃台の微熱が1か月間持続するため、当院受診した。抗生剤治療も改善なく、当科紹介となった。CTにて嚢胞性腎癌を疑う所見であったため、右腎摘除術を施行した。肉眼的には腎膿瘍の所見であったが、病理診断において、感染を伴うMESTKと診断された。MESTKについて若干の文献的考察を含めて発表する。

4. 表面麻酔による経直腸的前立腺針生検の検討

長岡赤十字病院 泌尿器科

池田正博、鈴木一也、米山健志

【目的】経直腸的前立腺針生検の麻酔法について検討した。【方法】当院で2015年4月から2016年3月の間に行った生検症例182例を対象とした。麻酔は直腸内へのリドカインゼリー注入とペンタゾシン(±ヒドロキシジン)静注を使用した。【結果】がん検出率は52.2%(95/182)、重篤な合併症をきたした症例はなかった。疼痛はNRSで評価し 3.85 ± 2.44 であった。ヒドロキシジンを投与した症例ではしなかった群と比べ嘔気嘔吐は少なかったが一時的な尿閉が増加した。

5. 重症前立腺膿瘍の2例

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

山名一寿、小原健司、山崎裕幸、黒木大生、富田善彦

1例目は急性期 DIC スコア 7点と高度な DIC、MOF を合併した前立腺膿瘍、敗血症の症例。前医で抗菌薬を投与され保存的に見られていたが改善なく当院へ搬送された。転院時の血小板数が 1 万に満たず、凝固系の延長も認めたことから即時の観血的処置は断念し、保存的治療にて全身状態の改善後に経尿道的にドレナージを施行した。2例目は前立腺癌に伴い膿瘍形成した症例、抗菌薬投与後も疼痛と炎症所見の悪化が見られたことから経会陰的にドレナージを施行した。いずれも入院は長期化した軽快に至った。ドレナージが最善の治療と思われるが、機を逸すると重症化するため早期の診断が重要である。

6. 女性外尿道口に発生し切除8年後に再発した“angiomyomatous leiomyoma”の一例

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科¹⁾、同 病理診断科²⁾、同 放射線診断科³⁾、高木医院⁴⁾、新潟大学 腎泌尿器病態学分野⁵⁾星井達彦¹⁾、西山勉¹⁾、長谷川剛²⁾、池田洋平³⁾、高木成子⁴⁾、小原健司⁵⁾

20歳代女性、外尿道口腫瘍の診断で切除術を受けた。平滑筋種の診断であった。8年後に同部位に再発し、当科を紹介受診した。外尿道口腫瘍の診断で切除術を行った。病理学的には、前回同様の組織像を認め、再発と考えた。扁平上皮と移行上皮との移行部粘膜下に、多結節性の比較的小血管の豊富な angiomyomatous leiomyoma を認めた。また、免疫で、Desmin, SMA, NCAM/CD56 および ER, PgR の陽性所見も認め、ホルモンレセプター陽性平滑筋腫瘍と考えた。

ショートレクチャー

前立腺がん細胞内における非活性型アンドロゲン 5 α -androstan-3 α , 17 β -diol からのジヒドロテストステロン再合成とアビラテロンによる細胞内アンドロゲン代謝阻害作用の検討

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野¹⁾、新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院 泌尿器科²⁾、あすか製薬メディカル³⁾安藤嵩¹⁾、瀧澤逸大¹⁾、武田啓介¹⁾、石崎文雄¹⁾、宮代好通³⁾、原昇¹⁾、西山勉²⁾、富田善彦¹⁾

去勢抵抗性前立腺がん (CRPC) の進行には多彩なメカニズムの関与が示唆されている。当教室では、男性ホルモン抑制療法を受けているにも関わらず、CRPC 細胞内に高活性型アンドロゲン (ジヒドロテストステロン (DHT)) が残留していることを示し、これが CRPC 進行の一因であると示唆してきた。一般的には副腎由来のアンドロゲンを基質として CRPC 細胞内で DHT が代謝・生成されると考えられているが、今回我々は DHT から代謝され不活化された非活性型アンドロゲン 5 α -androstan-3 α , 17 β -diol が DHT へと再合成されることを発見し、その代謝経路について詳細な検討を行った。また、この再合成経路には細胞内における 3 β -ステロイド脱水素酵素が重要な役割を果たしており、この酵素活性をアビラテロンが阻害することも確認したので併せて報告する。

[休 憩 16 : 20 ~ 16 : 50]

本学会終了後、同会場にてサテライトセミナーが予定されております。

第379回 日本泌尿器科学会新潟地方会 サテライトセミナー

日 時：平成28年9月10日（土）
16時50分～18時10分
会 場：新潟大学医療人育成センター 4階ホール

製剤紹介 前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤「フリバス錠」
16:50～17:00 旭化成ファーマ株式会社

座長 新潟大学大学院医歯学総合研究科
腎泌尿器科病態学・分子腫瘍学分野 教授 富田 善彦先生

一般演題 17:00～17:10
「当院におけるリコモジュリンの使用状況」
新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科 安樂 力先生

特別講演 17:10～18:10

『前立腺疾患の最近のトピックス』

愛知医科大学医学部 泌尿器科学講座
教授 住友 誠 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会
旭化成ファーマ株式会社

サテライトセミナー終了後、会場懇親会の開催はありません。